

2023年度点検・評価シート

・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針

【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	02 日本文学科	責任者	美留町 義雄
基準4	教育課程・学習成果	自己評価	A
★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> DPおよびCPを公表して、その理念に即した授業を展開し、教育・研究活動に取り組んでいる。			
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。		
★<学位授与方針> (記入してください。) 日本文学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（日本文学）の学位を授与する。 1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能 (1) 日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識を総合的・体系的に修得し、日本の文学や言語・文化の問題に関して専門的な知見を身につけている。 (2) 日本の文学と日本語に関するさまざまな時代の文献や資料を的確に読解することができる。 (3) 専門的な情報を集めるスキルを修得し、それを活用する能力を身につけている。 (4) 日本語文法や文章表現法に関する基礎的な知識を修得し、口頭または文章で自身の考えを発表するために必要な語彙力・表現力を修得している。 2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力 (1) 問題を発見し、解決するために必要な論理的思考力を身につけている。 (2) 他者との議論を通して、自身の考えを深めようとする態度と能力を身につけている。 (3) 専門的な問題に関する自身の考えを、一貫性・体系性を備えた文章で論理的に表現できる。 (4) 各時代の文学作品に関する批評能力や鑑賞力を有している。または、各時代・各地方の言語の特質を理解できる。 3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感 (1) 他者と協同して、積極的に問題に取り組み、その解決をはかろうとする姿勢・意欲を身につけている。 (2) 社会の現状に対して問題意識を持ち、その改善や向上に寄与しようとする姿勢・意欲を身につけている。 4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解 (1) 異文化や異質な他者を尊重し、理解しようとする態度・意欲を身につけている。		変 更	有() 無(○)
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7		
◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。			
<<回答>> 特に無し。			
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。		

<p>★<教育課程の編成・実施方針> (記入してください。)</p> <p>日本文学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 日本の文学と言語・文化に関して、体系的・通史的な知識や素養を身につける。「日本文学史概説」「日本語学概説」など。</p> <p>(2) 古代から近現代にいたる各時代の文献や資料を読解する能力や、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。「日本文学講読」「日本語学講読」、各分野の「特殊講義」など。</p> <p>(3) 4年間を一貫する少人数制の演習科目の履修を通して、問題発見・問題解決の能力、論理的思考力、文章表現力、口頭発表力、情報検索・情報分析の能力を養う。また、共通の課題に取り組むことを通して、自身と価値観や見解を異にする他者と向き合い、いかに協同するかを学んでいく。「日本文学基礎演習」「日本文学演習」、各分野の「演習」(ゼミナール)。</p> <p>(4) これまで修得した知識や技能、文学作品を批評・鑑賞する能力や言語の特質を理解する力をさらに発展・応用させつつ、卒業論文という成果にまとめ上げる。</p> <p>(5) 外国語科目や比較文学・文化関連の科目、全学共通科目の履修を通して、幅広い知識や素養を身につけるとともに、異文化に対する理解を深める。「比較文学・文化特殊講義」「比較文学・文化演習」「基礎教育科目」(外国語)など。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 知識の教授を目的とする教育内容に関しては、講義を中心とする授業形態をとるとともに、問題発見・問題解決の能力、技能修得などを目的とする教育内容に関しては、演習形式の授業形態をとる。</p> <p>(2) 基礎から発展へと体系的な学習が可能となるように、科目を配置する。</p> <p>(3) 初年次の日本文学基礎演習においては、入学以前の国語力の不足を補いつつ、文学研究の方法を学ぶ導入教育を行う。</p> <p>(4) 1年次から4年次まで一貫して少人数の演習科目を配置し、教員や受講生の間の討議を中心としたインタラクティブな教育を実践する。</p> <p>(5) 科目として「卒業論文」の時間を設け、主題や構想の検討などから文章添削に至るまで、教員(原則として3・4年連年演習の担当教員)と協議し、その指導の下に取り組んでいく。</p> <p>(6) 比較文学・文化の科目やゼミナールを用意するとともに、留学制度(協定校留学・奨学金派遣留学)の積極的な活用を推奨して、グローバルな視点から日本の文学と文化を見直すよう促す。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力に関しては、卒業要件達成状況、すなわち規定の単位数を取得したかどうかによって判定する。</p> <p>(2) 各科目に関しては、シラバスを通して成績評価基準を明示し、それに基づいて厳正な評価を行う。</p> <p>(3) GPA制度を導入して、客観的な評価基準を適用する。</p> <p>(4) 3・4年次連年の演習科目は、テーマや課題に対する受講者の取り組み方、問題発見・問題解決の能力、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。</p> <p>(5) 卒業論文は、論文内容を中心に、それまでの勉学の成果や態度などを多角的に検討して評価する。</p>		変 更	有() 無(○)
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。		
評価の視点2 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。		
評価の視点3※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト (大東文化大学の基本方針)、基礎要件確認シート7		
(DP と CP の各項目の番号を矢印で紐づけてください。)			
DP1 (1) → CP1 (1) (2) (3) (4)			
DP1 (2) → CP1 (2)			
DP1 (3) → CP1 (3)、CP2 (2)			

DP1 (4) → CP1 (3)、CP2 (3) DP2 (1) → CP1 (3)、CP2 (1)、CP2 (5) DP2 (2) → CP1 (3)、CP2 (1) (4) (5)、CP3 (4) DP2 (3) → CP1 (3)、CP2 (3) DP2 (4) → CP1 (2)、CP1 (4) DP3 (1) → CP1 (3)、CP2 (4) DP3 (2) → CP1 (5)、CP2 (1)、CP3 (4) DP4 (1) → CP1 (5)、CP2 (6)	
<p>★項目(2) 4-2DP1 から DP4 について、それぞれの内容がどのように CP の内容に反映されているのか (あるいは教育課程のどこで具現化されるのか)、その連関について説明してください。</p> <p>以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のもので、なおここでは DP1 のみ抜粋ですが続きがあります。</p> <p>・DP「1. 知識・技能」(1)に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」(2)の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」(1)で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、CP「1. 教育内容」(2)で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。</p>	
<<回答>> DP1「知識・技能」については、CP1(1)および(2)で挙げたように、「日本文学史概説」「日本文学講読」など日本文学に関して体系的な知識を身に付ける授業との関連が明示されている。また、DP2「他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力」の養成に関しては、CP1(3)の「日本文学基礎演習」「日本文学演習」「ゼミナール」において言及されている。さらに、DP3「自立的学習者として学び続け」る能力の育成について、CP2(1)(4)に、「演習形式の授業形態」による「インタラクティブな教育の実践」との関わりが記されている。最後に DP4「本学の建学の精神や理念」については、CP1(5)「比較文学」系の授業と多岐にわたる「外国語科目」、および CP2(6)に記載した留学制度が該当し、関連づけられている。	
<p>◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。</p>	
<<回答>> 特に無し。	
点検・評価項目(3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点1※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1*学則、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点2※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー
評価の視点3※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点4※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1*学則、B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き
評価の視点5※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9、10
評価の視点6※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点7※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけしており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き
評価の視点8	初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。
<p>★項目(3) 4-3①初年次教育・高大接続に配慮した授業について、根拠資料(該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど)を用いて、概要を解説してください。</p>	
<<回答>>	
教科書『日本文学研究入門』を学科独自に作成し、初年次教育に使用している。また、講義科目「基礎古典」を開設し、古文学習に関する基礎学力を身につけるための補講として役立てている。	<<根拠資料>> 02-C4-1:シラバス「基礎古典」「日本文学基礎演習」
評価の視点9※	教養教育と専門教育を適切に配置している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き
評価の視点10※	学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ

評価の視点 1 1	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。	
★項目 (3) 4-3②	社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。	
「回答」 無し。		「根拠資料」 02-C4-2 :
★項目 (3) 4-3③	「DAITO BASIS」科目として推奨されている科目で、全学共通科目以外として推奨している学部開設の科目について、科目名を明記してください。また、その設定・選定の基準について説明してください。	
「回答」 総合英語 A・総合英語 B 設定・選定の基準：内容が文学に特化しておらず、全学的な基礎科目にふさわしいため。		
★項目 (3) 4-3④	当該部局のカリキュラム全体の編成と、授業科目の配置の特色について解説してください。	
「回答」 一年次の「基礎演習」、二年次の「日本文学演習」、そして三・四年次の「演習」というゼミナールの授業が、一貫して展開している。それに平行し、「文学史概説」「特殊講義」「講読」という幅広い知識を学ぶ講義系の科目が設置されており、最終的に、「卒業論文」（必修：原稿用紙換算 100 枚）完成を目指すカリキュラム体系となっている。		
◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。		
「回答」 特に無し。		
点検・評価項目 (4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
評価の視点 1 ※ 【基礎要件●】	学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1* 学則、基礎要件確認シート 9	
★項目 (4) 4-4①	履修登録単位数の上限設定について、一部の科目を対象外としている場合、単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。 (注：「単位の実質化を図る措置」としては、教育課程上の配慮、授業時間外における学習を促進するための取り組みや、学習支援などです。いずれの場合もどのように取り組んでいるかを具体的に記述してください。)	
「回答」 履修指導および面談等は、実施していない。		
★項目 (4) 4-4②	規則上、長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生については、教授会の審査・承認を経て、上限を超える履修登録を認めることができる（履修登録単位数の上限を超えることを承認した教授会議事録が必要）。とあります。この場合も単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。	
「回答」 留学時の成績証明書を提出させて、本学にて対応する科目を吟味し、学科協議会および教授会にて単位認定をしている。		「根拠資料」 02-C4-3 : 点検対象期間中に実施した例なし。
★（上限設定の対象外としている科目を履修登録している学生数を記入してください。） ①諸資格科目（教職課程科目、その他諸資格科目、副専攻等）履修学生数： 274 人 ②長期海外留学終了者 学生数： 0 人 ③編入生 学生数： 0 人 ④転学部・転学科生 学生数： 0 人		「根拠資料」 02-C4-4 : なし
評価の視点 2 ※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」	
評価の視点 3 ※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制	
評価の視点 4	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。	
★項目 (4) 4-4③	学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)(3)(4)に該当する事例を根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて解説してください。	
(1)主体的な学び（演習、実習、フィールドワークなど）の事例		
「回答」		「根拠資料」

各分野の「演習」(ゼミナール) および「卒業論文」においては、受講生各自がテーマを探し、それに主体的に取り組んで、研究報告と執筆活動をしている。		02-C4-5: シラバス「比較文学・文化演習(3年用)」 「卒業論文」
(2)インタラクティブ(双方向)な授業展開のための少人数授業の事例		
<<回答>> 「日本文学基礎演習」「日本文学演習」「演習(ゼミナール)」は、各クラス15名の人数制限を行っており、双方向の授業展開をするための環境作りを整えている。		<<根拠資料>> 02-C4-6: シラバス「日本文学基礎演習」「日本文学演習2」「比較文学・文化演習(3年用)」
(3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例		
<<回答>> 「演習(ゼミナール)」では、発表の準備段階で、個人面談の機会が設けられている。「卒業論文」においても、受講生と教員とのマンツーマンでの話し合いが繰り返され、執筆に関する助言を与えている。		<<根拠資料>> 02-C4-7: シラバス「比較文学・文化演習(3年用)」 「卒業論文」
(4)授業方法として、グループ活動の活用の事例		
<<回答>> 教職科目では、実際の中学校・高等学校の授業を想定した学習形態となり、模擬授業やグループワークも取り入れている。		<<根拠資料>> 02-C4-8: シラバス「教科教育法(国語)1A」
(5)効果的な授業方法について上記(1)~(4)以外の事例		
<<回答>> 特に無し。		<<根拠資料>> 02-C4-9:
評価の視点5	学習の進捗と学生の理解度の確認	
★項目(4) 4-4④授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。		
<<回答>> 小テスト、口頭発表、必要に応じた面談を通じて、学習の進捗と学生の理解の把握に努めている。		
評価の視点6※	授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 (履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している(オンラインも含む))。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、(オンラインの場合はWebサイトも可→別紙の備考にURL記入)	
評価の視点7※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Webサイト シラバス	
★項目(4) 4-4⑤オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているか、どのように確認していますか。その方法などについて根拠資料を用いて回答してください。		
<<回答>> DBポータルやManabaなどLMSの活用によって、課題提示や予習・復習の確認を行っている。		<<根拠資料>> 02-C4-10: シラバス「日本文化史特殊講義2」
評価の視点8	授業形態によって1授業あたりの学生数について配慮している。	
★項目(4) 4-4⑥授業形態(講義、実習、演習)によって、1授業あたりの学生数を設定している場合、授業形態別に事例を回答してください。(例: 演習科目、実習科目は少人数(原則10名以下)、大規模講義科目は原則200名まで、など)		
<<回答>> 演習系の科目は、抽選および選抜を行い、15人以下としている。		
評価の視点9	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みを実施している。	
★項目(4) 4-4⑦学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みについて、記述してください。		
<<回答>> 特に無し。		<<根拠資料>> 02-C4-11:
◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。		
<<回答>> 特に無し。		

点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
評価の視点1※ 【基礎要件●】	<p>成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・GPAによる成績評価 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり <p>根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料</p>	
評価の視点2※ 【基礎要件●】	<p>学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり <p>根拠資料→A1-1*学則、A4-36*学位規則、基礎要件確認シート 10,12</p>	
◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。		
<p>《回答》 特に無し。</p>		
点検・評価項目(6)	4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	<p>学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。</p> <p>※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。</p> <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p>	
評価の視点2※ 【評価要件○】	<p>学生の学習成果の測定方法を開発している。</p> <p>《学習成果の測定方法例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p>	
★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定するための指標と、その測定方法をすべて記述してください。		
<p>《回答》 卒業論文の成績 必修科目のため全学生が卒論を提出、提出者の5割以上がS～A評価を目標とする。</p>	<p>《根拠資料》 02-C4-12： 「部局ごとの評価指標（2022-2025）」</p>	
★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。		
<p>《回答》 「9割以上が論文・制作ともに提出。提出者の5割以上がS～A評価であること。」という到達目標に対し、Sが23.9%、Aが53.5%であり、7割以上がS～A評価であり、成績に関しては目標を達成することができた。</p>	<p>《根拠資料》 02-C4-13： 「部局ごとの評価指標（2022-2025）」中間報告</p>	
★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。		
<p>《回答》 100枚という長い卒業論文を課することにより、専門分野に関する最低限の理解と文章力は確保できている。</p>		

★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。	
<<回答> 特に無し。	
点検・評価項目(7)	4・7教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。
★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。 他大学事例： <ul style="list-style-type: none"> 論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理しFD部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。 	
<<回答> 特に無し。	<<根拠資料> 02-C4-14：
★項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。	
<<回答> 特に無し。	<<根拠資料> 02-C4-15：

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・ 特色	1年次の「基礎演習」、2年次の「日本文学演習」、そして3・4年次の「演習」というゼミナールの授業が、一貫して展開している。それに平行し、「文学史概説」「特殊講義」「講読」という幅広い知識を学ぶ講義系の科目が設置されており、最終的に、「卒業論文」(必修：原稿用紙換算100枚)完成を目指すカリキュラム体系となっている。
-----------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題 点・ 課題	文学という専門において、客観的な学習成果の測定が困難であり、その指標を見出すことが課題といえる。
----------------	--

IV 【改善計画(事業計画)】

カ テ ゴ リ	計 画 番 号	B票No. or 開始 年度	改善計画 (アクション プラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	3	2022- 4III- 1(4- 7)	(4・7学習成果の測定結果の活用) 学科の教育プログラムの改善・向上	自己点検・評価を行う際に、学習成果の測定結果を踏まえた教育効果を検証し、学科の教育プログラムの改善・向上を目指す。	GPA制度を活用した、学習成果の測定方法の開発、自己点検・評価への活用、および、教員へのフィードバック。	A(100%)：改善計画の実施 B(80%)：改善計画の策定 C(50%)：測定結果分析とそれを踏まえた	2022 末結果： D 2023：D 2024：D 2025：C 2026：C

						自己点検・評価の実施 D(20%)：学習成果の測定・分析	2027：B 2028：A
④	4	2023	「基礎演習テキスト」作成と活用	「日本文学基礎演習」の共通教科書を作成する。この演習は、一年次の必修科目である。資料調査・研究発表の方法、レポート作成の仕方等々、日本文学を研究するための基本的な方法を修得する重要な科目であり、独自のテキストを学科で作成し、毎年継続的に改訂版を配布する。	①テキストの内容のアップデート ②新入生全員にテキストを配布 ③共通テキストとして「基礎演習」の授業で適切に使用	A(100%)：「評価指標」①～③を9割達成 B(80%)：「評価指標」①～③を8割達成 C(50%)：「評価指標」①～③を7割達成 D(20%)：「評価指標」①～③を6割達成	2023：B 2024：B 2025：A 2026：A 2027：A 2028：A

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度〈所見〉</p> <p>インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例、教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例、授業方法としてグループ活動の活用の事例に記された積極的な取り組みは高く評価できる。</p> <p>2021年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、卒業論文の成績としている。活用としては、カリキュラムの検証、DPに示した学習成果（能力の積算）との検証、学修支援内容の検討としている。これらの測定結果は今後、基準4の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。</p> <p>また、就職状況等を精査し、学科単位のキャリア教育の実施を検討されることを期待したい。</p>
<p>2023年度〈所見〉</p> <p>日本文学科の教育課程はDP（学位授与方針）とCP（教育課程の編成・実施方針）の関連が明確な形で編成されていることがカリキュラムマップ、カリキュラムツリー等にもとづいた点検・評価シート等の根拠資料によって確認できる。</p> <p>主体的な学びの事例、インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例、教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例、授業方法としてグループ活動の活用の事例に記された積極的な取り組みは評価できる。長所・特色に記されている学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置として、初年次教育用にテキスト『日本文学研究入門』を作成している。また、15人以下の少人数に抑えた「演習」において双方向授業を行い、それが100枚を超える「卒業論文」へと昇華できる体制が整っている、などの点は大きい評価できる。</p> <p>また、部局独自の学習成果の測定指標として卒業論文について「9割以上が論文・制作ともに提出。提出者の5割以上がS～A評価であること。」という到達目標に対して、7割以上がS～A評価であったことも評価できる。このことは、長所・特色にある、1年次の「基礎演習」、2年次の「日本文学演習」、そして3・4年次の「演習」というゼミナールの授業が、一貫して展開され、それに平行し、「文学史概説」「特殊講義」「講読」という幅広い知識を学ぶ講義系の科目が設置されており、最終的に、「卒業論文」（必修：原稿用紙換算100枚）完成を目指すカリキュラム体系となっていることが活きていると評価できる。</p> <p>なお、貴学科の学習成果の把握するための測定方法として、教育成果の集大成といえる卒業論文制作を設定されていることはとてもよい選択で評価できる点であり、学修行動調査結果による学生の満足度についても検証し課題を抽出されていることは高く評価できる。さらに、事業計画のアクションプランとしてGPA制度を活用した評価指標の開発も計画されており、今後全学的な学修成果可視化の実現のために、DP（学位授与方針）・AG（到達目標）の修得度がグラフ化される過程において、日本文学科の取り組みが一層活用されることが期待される。一方、昨年度の所見にもあるキャリア教育の実施についても改善が望まれる。</p>

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
---	--

	(評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合)
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 (評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合)
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。